

活用ナビ

①【ねらい】日本の水産業の変化と課題についてわかる。

②●**ア**と**イ**のグラフを比べましょう。
●それぞれの題，出典，縦軸，横軸を確認しましょう。
※教科書の細かな記述に留意したい。

②●**ア**と**イ**のグラフの変化の違いは何でしょうか。
※さんまの生産量は年によって変化が大きいことを，養殖ぶりと比較してとらえさせる。養殖の生産量が安定している理由にも触れる。

③●日本のさんま漁の課題は何でしょうか。
※「生産量が不安定だと，どのようなことで困るだろうか」といった発問で理解を深めさせたい。

④●**エ**のグラフの題，出典，縦軸，横軸を確認しましょう。
※3つのグラフを比較していくことも確認する。

④●グラフからわかる水産業の課題は何でしょうか。
※漁業生産量，輸入，養殖業とも，それぞれ課題があることを，他の項目との比較から考えさせたい。

5年-8

2-2 水産業のさかんな地域
水産業の変化と課題

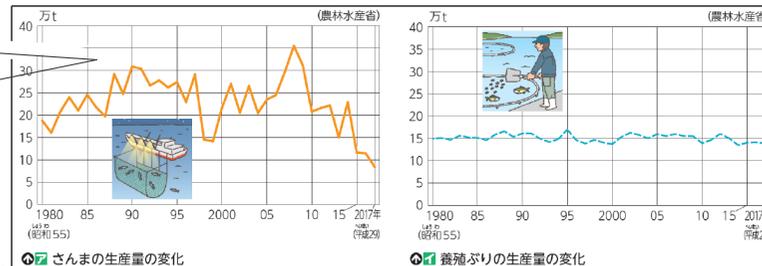
P92~P93

名前

5年 組 番

①【ねらい】日本の水産業の変化と課題についてわかる。

②【基本】**ア**と**イ**のグラフを比べよう。
・それぞれの題，出典，縦軸，横軸を確認しよう。



・**ア**と**イ**のグラフの変化の違いは何だろうか。

さんまの生産量は変化が激しい。養殖ぶりは毎年同じぐらいの生産量になっている。

③【ポイント】日本のさんま漁の課題は何だろうか。

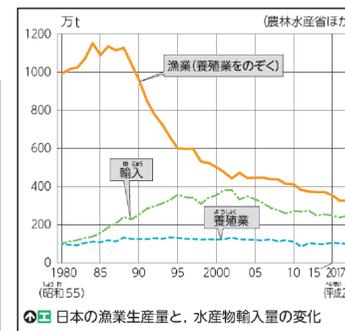
- ・生産量の変化が大きく，最近では減っている。
- ・環境の変化によって，生産量が安定しないので，不漁だと困る。

④【基本】**エ**のグラフを読み取ろう。

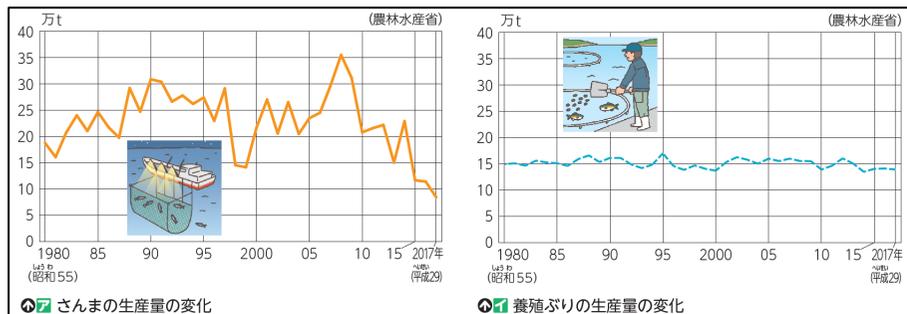
・題，出典，縦軸，横軸を確認しよう。

④ **イ** グラフからわかる水産業の課題は何だろうか。

- ・漁業生産量が減り続けている。
- ・漁業生産量は多い時の3分の1ぐらいだ。
- ・輸入も減り，養殖業も増えていない。
- ・水産資源が減っているのではないか。
- ・水産業の仕事が減っていくのではないか。



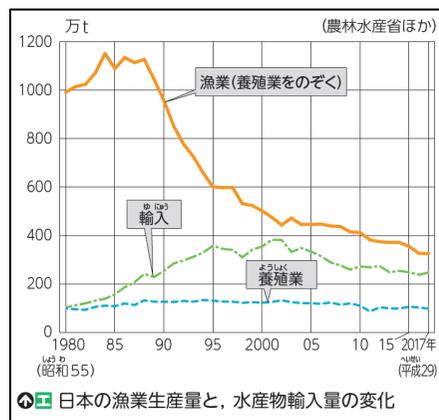
資料の読解



教科書の92ページには、3つの折れ線グラフが掲載されている。これらは、日本の水産業の課題に気づかせることができる資料である。

まずは、②と③のさんまと養殖ぶりの生産量の変化を比較することで、さんま漁が年によって生産量が大きく変化していることが理解できる。養殖ぶりのように、安定した生産量であれば一定の収入を見込むことができる。しかし、さんま漁の生産量が不安定だとどのような状況になるか、子どもたちに課題点を考えさせたい。

④のグラフは、日本の漁業生産量と水産物輸入手量の変化を表したものである。ここでも、養殖業は安定した生産量ではあるが、増加しているわけではない。また、養殖業を除いた生産量の減少は顕著である。輸入手量も減っており、水産業に携わる人々の収入減や水産資源の減少が懸念される。



読解の方法

- 3つの折れ線グラフのうち②と③のグラフを比較させる。②は変化が大きく、生産量が不安定なことがわかる。不安定なことで何が困るか考えさせることで、さんま漁の課題をとらえさせたい。また、なぜ不安定な生産量になるのか、教科書の本文の記述から理解させたい。
- ④のグラフには、3つの内容が示されている。この中で養殖業を除く漁業生産物の減少は顕著である。ピークの1980年代の3分の1ぐらいに減っている。この事実から、漁業関係者の収入の減少、働き手の減少、水産資源の減少等の課題を見つけさせたい。
- ④のグラフで輸入手量も減少傾向にあることは、水産物の消費量の減少と関係がある。また養殖業は安定した生産量ではあるが、増加しているわけではない。これらも、課題の一つであることを考えさせたい。